

第423回(平成12年4月11日)

1. Titration Calorimetryによる脂質-アポリポタンパク質相互作用の解析

薬品試験部 齋藤博幸

2. 甲状腺発癌物質の下垂体摘出ラットにおける甲状腺増殖性病変への影響

病理部 田村啓
三森国敏

3. ペルオキシゾーム増殖活性を指標とした環境汚染化学物質の評価法

環境衛生化学部 西村哲治

第424回(平成12年6月13日)

1. p53ノックアウト(ヘテロ欠損)CBAマウスの肝発癌物質に対する発癌感受性

病理部 高木久宜
三森国敏

2. 2-mercaptomethylbenzimidazoleラットにおける28日間反復投与毒性試験

毒性部 斉藤実

3. 生薬部の紹介

生薬部 佐竹元吉

第425回(平成12年7月11日)

1. 遺伝子置換によるbasic-helix-Loop-helix転写因子Mesp1, Mesp2の機能解析

毒性部 高木篤也

2. 転写因子Mesp1は、マウス心臓前駆細胞自身に発現し、心臓形成に必要である

毒性部 北嶋聡

3. マウス胚体筋形成における転写因子Mesp2とNotcシグナリングの関係

毒性部 高橋雄

4. 生物薬品部の紹介

生物薬品部 早川堯夫

第426回(平成12年10月10日)

1. 内分泌かく乱物質の甲状腺発がんおよび影響

病理部 孫和永
西川秋佳

2. ホルムアルビヒトの吸入暴露によるマウスの化学物質に対するアレルギー反応性の増強

療品部 五十嵐良明

3. マウス繊維芽細胞における細胞周期特異的に発現する遺伝子と転写因子E2Fの関係-DNAchipを用いた遺伝子発現解析例

病理部 石田誠一

4. 有機化学部の紹介

有機化学部 宮田直樹

第427回(平成12年12月5日)

1. ヒトプロト型c-Ha-ras遺伝子導入トランスジェニックマウスおよびp53癌抑制遺伝子ヘテロ欠損マウスにおけるdimethylanilineの発癌感受性薬剤反応性の個人差に関連する遺伝子多型について

病理部 安原加嘉雄

2. タンパク質凍結乾燥製剤の分子運動性と保存安定性

薬品部 吉岡澄江

3. 食品部の紹介

食品部 豊田正武

第428回(平成13年2月13日)

1. DNAマクロアレイを用いた発現-解析による遺伝子障害性の検索に関する基礎的検討

変異遺伝部 鈴木孝昌

2. トランスジェニックマウスを用いたクロスリンク型DNA付加体を形成する化合物の突然変異スペクトルの解析

変異遺伝部 小原有弘

3. p53欠損gpt deltaトランスジェニックマウスを用いた重粒子線等により誘発される突然変異の解析

変異遺伝部 国谷健介

4. 化学物質情報部の紹介

化学物質情報部 神沼二真

第429回(平成13年3月13日)

1. 北海道薬用植物栽培試験場の紹介

北海道試験場 柴田敏郎

2. 筑波薬用植物栽培試験場栽培研究室について(研究内容の紹介: DNA塩基配列にもとづく薬用植物の鑑別)

筑波試験場 菱田敦之
細川敬三

3. 筑波薬用植物栽培試験場種生理研究室での植物バイオ

筑波試験場 下村講一郎
吉松嘉代

4. 伊豆試験場の紹介

伊豆試験場 飯田修

5. 和歌山薬用植物栽培試験場と地域社会との関わり

和歌山試験場 酒井英二

6. 種子島薬用植物栽培試験場の紹介

種子島試験場 香月茂樹

支 所 例 会

第170回 (平成12年6月27日)

1. 日本人の日常的な食事に含まれるフタル酸エステル類濃度
食品試験部 津村 ゆかり
2. 医療用ラテックス製品から溶出する発熱性物質の同定
生物試験部 村井 敏美
3. 大阪支所ネットワークの現状と将来への展望
生物試験部 天野 博夫

第171回 (平成12年9月26日)

1. 粘度検出器、光散乱検出器の併用による高分子医薬品分析
薬品試験部 四方田 千佳子
2. ケルセチン及びビルチンのラットにおける代謝並びにステロイド排泄等に及ぼす影響
食品試験部 中村 優美子
3. 食用青色1号アルミニウムレーキの不適事例について
食品試験部 辻 澄子

第172回 (平成12年10月24日)

1. エルカトニン注射剤の品質評価試験について
薬品試験部 前川 京子
2. イチゴに含まれるラジカルスカベンジャーとしての低分子ポリフェノール
食品試験部 天倉 吉章
3. 4-tert-octylphenolをラット妊娠初期に経口投与したときの影響
生物試験部 原 園 景
4. Monobutyl phthalateのラット胎児の性分化に及ぼす影響
生物試験部 江馬 眞

第173回 (平成12年12月26日)

1. 農産物中クレトジム及びその酸化代謝物のHPLCによる分析
食品試験部 石光 進

2. マラチオンの小麦胚中酵素による分解

食品試験部 吉井 公彦

3. ヒト単球系株化細胞を用いた in vitro 発熱性物質試験法の開発

生物試験部 中川 ゆかり
前田 秀子

第174回 (平成13年1月23日)

1. 日本抗生物質医薬品基準の日本薬局方への統合について
薬品試験部 谷本 剛
2. マレーシア国食品衛生プログラム強化プロジェクト短期調査報告
食品試験部 外海 泰秀
3. 構造生物学と細胞内シグナル伝達
生物試験部 田中 寿一

第175回 (平成13年2月27日)

1. 日局「電気滴定法」及び「容量分析用標準液」の改正
支所長 岡田 敏史
2. ペルー産薬用植物の紹介
薬品試験部 小出 達夫
3. 高分子量ヒアルロン酸とドキシサイクリンによる複合体形成とその薬物放出特性
薬品試験部 宮崎 玉樹

特別講演

平成12年11月13日

「DNA解析技術開発の最先端と21世紀への展望」

徳島大学薬学部教授 馬場 嘉信